一般社団法人
富山県作業療法士会 ニュース

平成29年度　No.3　第 126 号　平成30年1月26日

発行　一般社団法人 富山県作業療法士会
会長　田　村　良　子
印刷　㈱チューエッ

富山県作業療法士会ホームページ　http://toyama-ot.sakura.ne.jp
富山県作業療法士会会員数：618人

“顔の見える”県士会を目指します！

一般社団法人　富山県作業療法士会　理事
渉外部長　地域アドバイザー委員長　橋爪　佳美
（八尾老人保健施設　風の庭）

理事リレーコラムも３回目となりました。私は、県や市町村、各種団体等から、作業療法士の派遣依頼があった時に、会員の皆さんにお願いをする役目を担っております。

数年前までは、依頼が来れば対応するといった言わば受け身的な状況でしたが、最近では、作業療法士という専門職を積極的にアピールし、こちらのほうから「どうぞ、作業療法士を使ってください」という方向に変わってきています。

地域包括ケアシステムの構築が進む中、その要となる地域ケア会議への助言者としての参加や介護予防教室、住民主体の通いの場等にリハビリテーション専門職の関与が求められてきます。つまり、これまで以上に会員の皆さんにご協力をお願いしなければいけないわけです。でも困ったぞ！今や会員数も600人を超え、施設数も120余。どこにどんな会員がいて、何を得意としているのかわからないのです。まずは、会員同士が“顔の見える関係”になれる仕組みを作るところから始めました。県内を、新川、富山、砺波、高岡の４つの地区に分け、地区ごとに地域アドバイザー委員が中心となって勉強会や座談会を開催しました。その中で、お互いの取り組みや悩みを話し合ったり、地域の情報を交換し合ったりしました。その後、個人的に連絡を取り合い、相談やアドバイスのやり取りをしている会員もおられると聞いています。範囲の広い地区や施設数の偏りもあり、まだまだ改善の余地があると思いますが、少しずつでも“顔の見える関係”ができつつあるようで嬉しく思っています。

一方で、行政や地域包括支援センターへのＰＲ活動も行ないました。まずは、理学療法士会、言語聴覚士会と共に「リハビリテーション専門職協議会」として、パンフレットを配布し、派遣依頼の窓口も開設しました。さらに、「リハビリ専門職」とひとくくりにならないよう、作業療法士会独自にも各市町村担当者や地域包括支援センターに足を運びました。県士会で作成したパンフレットやクリアファイルも大いに活躍しました！こうした種まきが少しずつ芽を出し始めてきたようで、“作業療法士の方に来て頂きたい”という依頼が増えてきました。行政や他の職種の方とも“顔の見える関係”作りが大切だと感じています。

今後は、人材育成の研修会を充実させると同時に、会員同士が情報交換や相談をより活発にできるような環境づくりも工夫していきたいと考えています。“顔の見える”関係が、同職種連携に繋がり、さらに多職種連携へと広がっていくのだと思います。

皆さん、何か依頼がきたら、躊躇せず受けてください。必ず、先行者が助けてくれますから！よろしくお願いしま～す(^O^)／

第51回日本作業療法学会に参加して

富山医療福祉専門学校　**渡邊　純子**

第51回日本作業療法学会（９月22～24日)は、「作業療法の挑戦－多様化するニーズに応える理論と実践－」というテーマで開催されました。OTとして15年の経験になりますが、OTの養成や特別支援教育等に関わるにあたり、OTの可能性について自問する日々が続いています。このような中、これからのOTの可能性を考えるために、一つでも手がかりを得たいと思い参加しました。

学会長講演－作業療法と学術活動－(信州大学大学院医学系研究科　教授　小林正義先生)では、OBP (Occupational based practice)、OFP (Occupational focused practic)、意味のある作業(Meaningful occupation)などが世界の共通言語であるというOTの独自性や専門性についてお話しされました。専門性を共通の言葉で主張することが求められていることを実感しました。また、口述・ポスター発表では、MTDLPを用いた症例報告、人間作業モデルやクライエント中心を理論的基盤とした実践報告、就労支援に関する報告、災害支援におけるOTの介入の可能性、特別支援教育に関する報告等が例年より増えていたように思います。中心的な焦点を作業に当てる、また、多様化している地域の課題に対応できる考え方がOTにも求められてきていることを強く感じました。OT教育に関しても、臨床実習におけるMTDLPの活用やクリニカル・クラークシップの導入に関するものが増えており、効果的な教育に結びつけるためには、養成校と臨床実習先との連携が以前よりもさらに重要になってきていると考えられます。

今学会では、活動をしている日本ネパール教育協力会での報告「NGOによる国際協力－ネパールにおける座位保持装置製作ワークショップの経験から－」をポスター発表する機会を得ました。内容は、異文化であるネパールにて、脳性麻痺（４歳、女児）の子どものための座位保持装置をワークショップ形式で製作し、その経験から異文化での物的・人的資源の活用について考察しましたが、日本とは異なる視点からの見解は、自分の視野を広げることにつながり、大変貴重な経験となりました。さらに懇親会では、地域のニーズに合わせて起業をしているOTの方と出会いましたが、OTの仕事は地域社会から非常に求められる職種であることも再認識しました。

1917年、OTという専門職が発展していく礎となる米国OT協会が発足されちょうど100年になりますが、1970年代に作業行動パラダイムへ方向転換しています。また、日本でもOTが誕生して半世紀を過ぎています。ロシアの経済学者の‘コンドラチェフの波’によると、歴史的に世界は50～60年ごとに大きなイノベーションにより、パラダイムシフトが起こると言われています。まさに今、私たちOTは、パラダイムシフトを起こす時期にきていると思います。現在の社会は多様化しており、医療だけではなく、保健、福祉、教育、企業の分野でOTの活躍が期待されるようになっています。社会の変化に合わせて柔軟に対応できるOTをめざし、OTの可能性を拡大していけるように、これからも日々の経験を積み重ねて行きたいと考えています。

ポスター展示にて、海外からの参加者と

第17回東海北陸作業療法学会に参加して

アルペンリハビリテーション病院(現 厚生連高岡病院)　南　真樹

平成29年11月18日～19日に愛知県産業労働センター　ウインクあいちにて第17回東海北陸作業療法学会が開催されました。「作業療法から未来へのおくりもの～人・作業・社会を紡ぐ臨床技術～」というテーマのもと、市民公開講座や様々な講演、展示などが行われました。発表については口述92演題、ポスター38演題がありましたが、富山県からはそれぞれ３演題、２演題とやはり少なかったように感じました。

今回印象に残ったものの一つは、脊髄損傷者に特化した訪問看護・介護ステーションの運営についてでした。特に若年で重度の方では親の介護負担などの課題もあり、多様なニーズに応じ、可能な限り自律した生活が送れるよう支援する事で、住み慣れた地域を離れてでも一人暮らしをされる方もいるという事には驚きました。他にも、VRを用いた自動車運転シミュレーターの展示や高齢者世帯向けに支援機器にて在宅環境を整えた「ロボティックスマートホーム」の研究開発の紹介などもありました。先端技術への関心の高まりだけではなく、それらの実現に向けた異業種間の連携の必要性と作業療法士が関わる職域の広さを痛感し、作業療法士が今何を求められ、これからどのように社会に貢献すべきかという事を改めて考える良い機会となったと思います。

話は変わりますが、今回は私自身も初めて演者として発表させて頂きました。当院は回復期リハビリテーション病院であり、脳卒中患者が多くを占めています。退院後も下肢装具の調整が必要な方、機能回復や自動車運転の再開を希望される方などから多くの相談が寄せられており、継続したフォローアップが必要と医師が判断した場合に限り、療法士による外来での評価や治療が行われる場合があります。中でも脳卒中後の痙縮に対しては、数年前よりボツリヌス療法を行っており、その後の治療や自主訓練の指導により、維持期でも上肢機能が改善し、生活行為の向上に繋がった症例を経験しました。そこで「維持期脳卒中片麻痺患者の上肢痙縮に対するボツリヌス毒素療法とリハビリテーション　後療法選択の為の一考察」と題し、ポスター発表をさせて頂きましたが、自身の介入を振り返る事はあっても、データをまとめ、院外で発表するという経験が殆ど無かった私にとってはとても大変な作業でした。発表自体も練習不足で緊張しましたが、フロアからは沢山のご質問を頂き、セッション終了後もアドバイスを頂いたり、臨床で同じ課題に悩んでいる方と意見交換をしたりと、短い時間ではありましたが、とても有意義な経験となりました。

全国学会や県学会にはこれまでも何度か参加させて頂きましたが、発表についてはどこか他人事のように感じており、正直なところ避けていた部分もあったように思います。臨床の振り返りだけでなく、治療技術や表現力の向上、職員教育にも繋がる事など、得るものは沢山あると思います。是非皆さんも挑戦されてみては如何でしょうか！

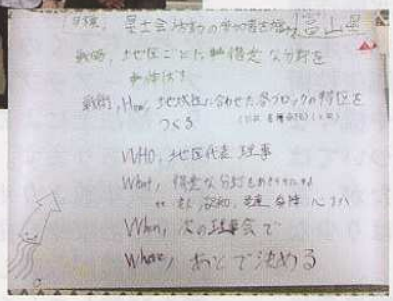
東海北陸作業療法士会
リーダー養成研修2017in三重に参加して

松岡病院　衣笠　正

リーダー養成研修会に参加させて頂きありがとうございました。内容は、前年に行われたSWOT分析による県士会の課題に対するアクションプランの実行状況の振り返りやグループワークでアクションプランをより具体的にしていくというものでした。

１日目は、リーダー論、マネジメントについての講義を谷先生に受けた後、他県士会の方々と職場のマネジメントについてグループワークを行いました。

少し本題から離れますが、私が仕事をする上で大切にしていることに「上手くいかないことを楽しむ」があります。私は初めての場所だと「あー失敗したな」と思うことが多々あるのですが、今回もグループワークで皆様名刺交換をされていましたが、私は不携帯であったので頂くだけになっ



てしまいました。私には県士会活動で名刺交換をして人との繋がりを作るという発想がなかったと今振り替えっています。同様の場面では携帯し、初めて会う方やお話しさせて頂いた方にはお渡ししたいと思いました。グループワークでは諸先輩方の一つ一つのことに妥協を許さない姿勢に感銘を受け、明日に繋がるいい刺激を頂きました。

研修2日目には、県士会ごとで前年のリーダー研修会で立てた「県士会活動の参加者を増やすために」という目標に向けたアクションプランなどの実行状況の振り返りをし、再度SWOT分析、アクションプランの立案をしました。今回はさらに一つのアクションプラン実現のための戦略として「地区毎に得意な分野を伸ばす」をあげ、次の段階として具体的な戦術を5W1Hで考えました。具体的なことはここでは割愛しますが、実現するかしないはさておき、「県士会の発展」という視点で考えプランニングするという経験を初めてできたのは大変有益でした。私は、現在資格取得から11年目ですが、去年ぐらいまでは勤務病院の業務のことで手いっぱいで、県士会の活動もそれなりに参加はしていましたがどこか受け身な部分があったと思います。正直「自分たちの県士会」という当事者意識はそんなになかったように思います。しかし、今回他県の方々の取り組みや熱意、また、一緒に参加した県士会の方々とのお話しの中で、県士会について考えることは大事なことでありちょっとおもしろいことだと思いました。まだ取り組めていないことは時間を見つけて少しずつできたらいいなと思います。

最後に、貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

富山県作業療法士協会　H29年度 懇親会に参加して

黒部市民病院　**朝野　真奈花**

今回新入会員として今年度の懇親会へ参加させていただきました。今年春、一緒に卒業した富山医療福祉専門学校の仲間からの誘いを受け、参加を決めました。学生時代は社会人の方と接する機会は少なく、親戚やアルバイト先の上司と関わっていた程度でした。そのため、偉大なる先輩作業療法士の方々と席を共にすることには正直抵抗がありました。

しかし、いざ足を運んでみると会場はとても和やかな雰囲気であり、緊張していた自分はいつの間にかリラックスして、とても楽しい時間を過ごしていました。作業療法士として勤務し始めて丁度半年が経った頃であり、日々の仕事が正解か不正解か分からない状態で億劫になっていましたが、この懇親会で様々な先生方と話す機会を得てそんな自分の気持ちが少し晴れ模様に変わりました。また、もっともっと色んな人と話し、視野を広げていきたいと思いました。

そんな中印象に残った話ですが、作業療法士という職業はアメリカでは子供が着きたい職業ラン

キングで上位にランクインしているということです。日本とアメリカでは様々な違いはありますが、この事実を知って私は単純に嬉しいなと思いました。「作業療法士です。」と言って「何それ？」と言われることがまだまだ多い世の中ですが、胸を張って仕事に取り組んでいきたいと思います。そして、富山県士会員として所属している普及指導部を通して作業療法をこれからも盛り上げていきたいです。

社会人としてそして作業療法士として、真っ白な手で患者さんに触れる１年目ですが、これからはそんな手をどんなに色にしていくのか、いつか自分の手に深みのある輝きがみられることを楽しみに、これからも毎日を過ごしていきたいです。

第21回　滑川ほたるいかマラソン　給水ボランティアに参加して

西能病院　作田　甚太郎

10／8(日)に第21回ほたるいかマラソンが開催されました。第17回から「OTの普及」「社会貢献」を目的に、給水ボランティアを行う一団体として参加させてもらっています。

今年は県士会員13名とお子さん１名で参加しました。今回もほたるいかミュージアム前を担当することになりました。ほたるいかミュージアム前は、参加者の最も多いハーフコースの中間地点であり、たくさんのランナーが密集する給水ボランティアとしてはもっとも忙しいポイントです（私の個人的な意見ですが…たぶん間違いないです）。今回で５回目であり、複数回参加してくれている県士会員も多いので、設営～レース中の給水～レース終了後の片付けまで段取りよく無事に終えることができました。「段取りよく」といいましたが、過去５回の経験から前もっていろいろな工夫をほどこしていましたが……ランナーの波が押し寄せてくると戦場のような忙しさは、今年も相変わらずでした。

今回、当日に「地元の中学生もボランティアの一員として参加するので、お願いします」と、一任され、中学生10名程度と一緒に活動を行いました。中学生とふれあう機会もつくれ、目的である「OTの普及」にもなったのでは？と個人的に思っております。

中学生を任されるようになったのも、ひとえに、今まで参加してくださった県士会員のみなさんの活動を、マラソンの実行委員が認めてくださった証であると思われます。このような信頼が続くように、今後も継続して県士会として参加していきければと思いました。

多くの方々の一生懸命な姿をみられる恰好の場であり、OTのみなさんなら終わった後は必ずやすがすがしい気分になりますので、次回も多くの方に参加しこの経験をしていただければと思います。次回も、福利厚生部の事業として継続しますのでよろしくお願いします。

身体障害部会に参加して

富山西リハビリテーション病院　**端　海斗**

今回、厚生連高岡病院で行われた身体障害部会の研修会に参加させていただきました。テーマは「就労支援と地域連携」であり、株式会社ヴィストの奥山先生、北原国際病院の峯尾先生からの講義でした。

現在、富山県では、障害者の法定雇用率は2.0％であり、ほぼそれに近い状態で雇用ができているそうです。しかし、得られる賃金が安い、職場の障害者への理解が低い、当事者本人の障害認識が低いことなど課題が残っているとのことでした。これらに対する作業療法士としての介入として障害者が適当な就業の場を得るための職業指導、職業訓練を行わなければならないと感じました。また、就職した後も継続的な評価や、職場との環境調整などの介入が必要とのことでした。

私は、４月に作業療法士として働き始め、療養病棟で作業療法を行っています。療養病棟の患者様は自宅復帰・社会復帰される方は少なく、就労支援という分野は関わったことがありませんでした。峯尾先生の言われた「その人にとっての働くことの意味を考える」というお話を聞いて、学んだ技術や知識を患者様に提供するだけではなく、その作業が患者様にとってどのような意味があるのかを考えて治療を行うことが、非常に重要だと感じました。峯尾先生は、病院だけでなく地域に出て対象者の様子や企業について知ったり、テレビ番組などからその職業について学んでおられるそうで、病院外でも様々なところで対象者のことを考えておられ、私自身も患者様のために常に学ぶ姿勢を持ち続ける必要があると感じました。

今回の研修会に参加して、その人にとってそれぞれの作業がどんなことを意味するのかを考え、適切な評価をすることが必要だと感じました。また、自分自身も多くのことに挑戦する積極性を持ち、病院内だけでなく、様々なところから患者様のことを考えられる作業療法士になりたいと思いました。

障害老人部会研修会

『高齢者の終末期ケア・リハアプローチ～エンドオブライフ・ケア～』を終えて

障害老人部会長　金沢医科大学氷見市民病院　**菅澤　大介**

平成29年9月10日、高岡ふれあい福祉センターにて、『高齢者の終末期ケア・リハアプローチ…』と題しまして研修会を開催しました。講師には、三重県の松坂中央総合病院で作業療法士をなさるとともに終末期・緩和ケア作業療法研究会副会長でもある田中一彦先生をお迎えしました。

講義では、緩和ケア、終末期の考え方の成り立ちを始めとして、作業療法士に求められる心がまえ、支援方法を学びました。とくに患者様とコミュニケーションをとる上での相互理解のお話は興味深いものでした。「当事者でない作業療法士は対象者の本当の気持ちはわからない、相手から理解者として認めてもらえるように意識することが大切、それだけで作業療法士側の聴き方も変わってくる」。患者様と接する上での気持ちのもちかたについてあらためて考えさせられました。

グループワークでは、発症からのステージごとに作業療法士としてできることを話し合いました。アンケートでは「悩みを共有し、確認することができた」という意見をいただきました。終末期に生じやすいことがらについて、問題意識を共有しふだんの作業療法を見直すこともできたようです。また、看護師などの参加があったグループでは他職種の意見を聞く貴重な機会にもなりました。

田中先生からは地元のお菓子が参加者に振る舞われました。先生ご自身の体験談もまじえながら随所に工夫がなされ、さいごまで興味をもって聴き入ることができました。「今までやってきたことが間違っていないことが分かり安心した」「不安が解消できた」といった感想をいただきました。終末期、緩和ケアという困難な課題について理解を深められたことはもちろん、これから各現場で作業療法を行っていく上で実りの多い研修会であったと感じています。

会員リレーコラム

アルペンリハビリテーション病院
宮城　健司

県士会会員の皆様こんにちは。私はアルペンリハビリテーション病院に勤務しております、宮城健司です。作業療法士となり、今年で８年となります。今回リレーのバトンを受けましたが、このようなお仕事を受けることは初めてなので、「コラムってなに？」「どんな事を書けば良いのだろうか」などと色々な資料を手に取り、右往左往しておりますが、今回は２つの事についてお話したいと思います。１つは「当院の紹介」、もう１つは「私自身の最近の出来事」についてです。

私の勤務しているアルペンリハビリテーション病院は、富山市民球場（アルペンスタジアム）の傍にあり、回復期リハビリテーション専門の病院です。当院では、「促通反復療法」を導入・実践しており、私は５年前に鹿児島県の霧島リハビリテーションセンターで１か月間研修をしてきました。また、本年11月にはリハビリテーション支援ロボット「ウェルウォークWW-1000」を導入するなど、より効果的・効率的な治療が提供出来るように日々努力しています。今年５月にはヤギの「ミルク」と「ココア」が当院に就職しました。この２名（匹）はスタッフの日々の疲れを癒してくれると共に、患者様・ご家族様にも癒しと笑顔・元気を与えてくれる職員とし、リハビリチームの一員として大活躍中です。

さて、私も８年目になると、後輩を指導する機会や、学生の臨床指導を担当する機会も増えました。また私は普及指導事業部に在籍し、毎年「作業療法士体験会」に参加しており、高校生と作業療法士について話をする事も良くあります。最近では、石川県で参加させて頂いた講演の中で講師の先生がおっしゃった「どんなOTになりたいか。」という問いかけに、ふと自身を考えさせられる事がありました。皆様は、この質問を自分自身にしてみると、どのような答えが出てきますか？私は最近「今」の生活にばかり目を向けてしまう事が多く、「今後」を考える事がありませんでした。その為、作業療法士として、今後何をしていきたいか、その為に今何をしていくべきかを考え直す良いきっかけとなりました。今後、しっかりと将来のビジョンを明確に持ち、自身の目指すOTに向けて日々精進していければと思っています。

最後に、このリレーバトンを「有限会社ライフ・ハウスちむぐりさ」の高崎信弘さんへ渡したいと思います。

新入会員の横顔

1．名前　2．施設名　3．出身校or旧所属施設
4．趣味・特技　5．好きな店・おすすめの店
6．OTとして働いてみての感想
7．今後チャレンジしたいと思っていること

1．成田　大樹
2．松岡病院デイケア
3．専門学校金沢リハビリテーションアカデミー
4．趣味はデイケア利用者さんと話す事、特技は水泳です。
5．射水にあるカシミールと言うパキスタン料理のお店のカレーです。普通盛りでもかなりボリュームがあるので、大盛は頼まない方がいいかも…
6．まだまだ新米なのでわからない事ばかりですが、利用者さんと話したり、物を一緒に作ることがとても楽しいです。
7．ゆくゆくは利用者さんの社会復帰を行いたいと思っています！

施設紹介

グリーンヒルズ若草病院

坪田・金木・釈永

当院の前身である城南病院は昭和31年に高岡市に創設され、地域精神医療への貢献を目指し様々な研究会に参加し、診療活動などをしてまいりました。この間、精神科医療を取り巻く流れは収容から地域へと急激に変化し、当院もその流れに沿って平成９年には法人化、平成10年には精神科訪問看護とデイケアを始めました。平成12年には快適な療養環境を提供すべく、現在の地に全床を精神療養病棟として新築移転し、グリーンヒルズ若草病院を開設しました。

従来の精神科病院のイメージを払拭する外観と光をふんだんに取り入れた明るい院内。晴れた日にはデイルームから立山連邦が一望できます。平成19年には日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の認定を受け、その後ver.6.0に更新しました。

当院は精神療養病棟172床であり、開放・閉鎖病棟があります。現在、作業療法士は３名おり、各病棟をＯＴ１名が担当し病院理念である「常に患者様の立場に立って物事を考え、心のこもった医療を提供します」を基に、園芸や手芸、体操など様々なリハビリテーションを実施しています。また、院内での活動だけでなく花見や紅葉狩りなど患者様の意見を取り入れながら、毎月院外での活動を病棟スタッフと共に計画・実施しています。最近では、コカコーラ社や鱒寿司の工場見学、退院後の生活に重要な“買い物”に着目しコンビニやファッションセンターしまむらでの買い物などを実施し、生活の楽しみや喜びを感じる機会を通して退院後の地域生活をイメージできるよう支援しています。

今後も、それぞれの患者様が「その人らしい」生活を送れるよう、スタッフ同士で連携を取り、援助を行っていきたいと思います。

お知らせ

「生活行為工夫情報モデル事業」の導入

OT協会の制度対策部では「生活行為工夫情報モデル事業」を構築しています。障害者（児）や高齢者が生活の中で不自由に感じている行為にたいして、身近な用具の利用や動作方法の工夫などのOT情報を集め、関係者がその情報を使用できる仕組みになる予定です。

富山県士会では平成30年度にこの事業に参加する方向で準備を進めています。県士会員の皆様から多くの事例を収集したいと思っています。詳細は追ってお知らせします。

福祉用具相談支援システム　富山県士会代表アドバイザー　　澤木　佳子

県士会よりホームページ掲載・郵送に関してのお知らせ

これまで県士会ホームページや郵送での研修会・講演会案内を行ってきましたが、今後は以下の条件のものに限り掲載・郵送することとなりました。

・「日本作業療法士協会主催・共催・後援・SIG団体」
・「富山県士会(他都道府県士会含む)主催・共催・後援」

上記条件に当てはまらない場合で掲載・郵送を希望される方は、県士会後援依頼の手続きが必要となりますので県士会事務局までお問い合わせ下さい。

県士会事務局：富山医療福祉専門学校内
〒936-0023　富山県滑川市柳原149-9　Tel/Fax 076-476-0707

県学会のお知らせ

第17回　富山県作業療法学会開催！

高齢化が進展する中で、国や各自治体・地域は、地域包括ケアシステムの推進に取り組んでいます。そこで、私達作業療法士も制度や施策の動向に伴い、更に作業療法士として専門性の発揮が求められています。

今学会では、医療から介護、地域へとおもいをつなぎ、人をつなぎ、くらしをつなげたいという意味を込めてテーマを　つなげよう！「くらし・人・おもい」～地域に必要とされるOTをめざして～　としました。

特別公演は作業療法士協会の地域包括ケア推進委員会前委員長、現担当理事である佐藤孝臣氏（株式会社ライフリー代表取締役）をお招きし、『地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割』～診療報酬・介護報酬同時改定で私達がするべきこと！～と題し、御講演頂く予定です。私達にとって、とても重要なお話が聴ける事と思います。ぜひお聴き逃しなく！

又、県内の地域活動紹介を行います。ぜひご参加ください。

Ⅰ．南砺市で実践されている認知症出前講座（講師：南砺市民病院 齋藤洋平氏）

Ⅱ．体操紹介　1）《高岡音頭》（講師：ケアホームなかそね 山崎由起子氏）

　　2）《きららか射水100歳体操》（ＤＶＤ 上映）

そして、展示室では福祉用具器機展示を行います。在宅生活での自立を支援し、活動や参加のある暮らしには環境づくりが欠かせません。実際に見て触れて感じイメージしましょう。

士会員の皆さんが、積極的に取り組まれた日頃の研究や成果である演題発表は、小ホールで口述発表を、展示室でポスター発表を行います。同時に進行となりますので、事前に演題を確認し、有効に時間を使って下さい。

今学会において、私達のおかれている状況や制度を再確認し、今後私達作業療法士に求められている役割について考えましょう。それぞれの現場や各市町村や地域において行動につなげる大切な機会になりますように。

平成30年３月４日㈰　高周波文化ホール（旧新湊中央文化会館）　でお会いしましょう

学会長　菱田　仁子

平成29年度　第５回理事会

場　所：谷野呉山病院
日　時：平成29年10月２日㈪　19:00～
参加者：田村・松岡・作田・島津・丸本・田邊
高林・齋藤・松本・森・桐山・古澤
小倉

〈報告事項〉

1．県士会懇親会９月９日－32名(内新卒者７名)の参加
2．東海北陸リーダー研修会／10月14、15日／三重県四日市－丸本常務理事、水島氏・河井氏（厚生連滑川病院）、衣笠氏（松岡病院）、岡田氏（八尾総合病院）の５名参加予定
3．OT協会認知症作業療法推進委員会／11月18、19日／東京－齋藤理事、桐山理事参加予定
4．OT協会災害ボランティア研修会／11月19日／協会会議室－砺波地区リーダー高田氏参加予定
5．東海北陸作業療法学会座長依頼－身障分野２セッション－古澤理事、長江氏（県リハビリテーション病院・こども支援センター）推薦
6．次期理事候補－大谷内氏(氷見市民病院)、能登氏(かみいち総合病院)、大平氏(あさひ)総合病院）、吉村氏(八尾総合病院)承諾
7．ねんりんピック2018(健康と長寿の祭典と兼ねる)への出展／11月3～5日／富山県総合体育館－PT、OT、ST三団体合同でできないか調整中
8．OT協会倫理委員長より倫理問題事案の仮処分の決定（退会）について報告あり。
9．OT協会士会システム講習会／10月28、29日／協会会議室－吉波理事参加予定
10．OT協会運転に関する作業療法の指針説明会および士会協力者会議／11月12日／東京－桐山理事参加予定
11．富山県福祉カレッジ専門多職種連携とソーシャルワーク実践研修／11月16日／高志会館－高林理事、橋爪理事、水上氏（砺波誠友病院）参加予定
12．小矢部市大家病院50周年式典・祝賀会／10月８日－松岡副会長出席予定
13．OT協会生涯教育推進担当者会議／11月12、13日－谷口理事参加予定

14. 生涯教育現職者選択研修会「老年期障害」／11月19日／滑川市民交流プラザ
15. OT協会47委員会より30年度作業療法モデル事業（組織強化・人材育成）の決定のための投票依頼－田村会長対応
16. 県学会進捗状況－9月時点で演題登録0であり、学術部の各部会に依頼する。
17. 障害老人部会研修会／9月10日－OT47名、他職種3名の参加
18. 在宅医療研修会／10月1日－61名(内OT21名)参加。来年度でこの研修会は終了するので、士会員全員が受講済みになるよう働きかける。
19. MTDLP事例検討研修会／9月30日－推進委員を含め27名の参加

〈検討事項〉

1．ホームページの運用について
・研修会案内掲載についての規程
富山県士会の主催、共催、後援の研修会、OT協会の主催、共催、後援の研修会、SIGについて掲載する。
・求人広告の掲載について
県士会所属の施設に限り広告掲載として受け付ける。
・ホームページ担当者へ管理料として年額2万円を支払う。
2．12月2、3日に福井県で開催されるMTDLP事例検討会参加者への謝金について
今年度は宿泊費も必要。懇親会費を出す条件はこの事業を担っていく人材となることだが、今の段階でそれを条件として参加してもらうのは難しい。実際には参加者の内、懇親会に参加せず1日目で帰る人が多い。来年度は富山県で開催予定。
3．全体会の日程、内容
12月13日(水)19:00～　谷野呉山病院。来年度事業計画の調整。学術部の研修会の日程、内容等は3月末までに決定するように。
4．協会員＝士会員の方向性について
すでにOT協会、47委員会で協会員＝士会員へ5年以内にすると決めているので士会員に周知し体制づくりをしていく。

平成29年度　第6回理事会

場　所：谷野呉山病院
日　時：平成29年11月6日(月)　19:00～
参加者：田村・作田・島津・丸本・吉波・小倉・田邊・齋藤・橋爪・松本・桐山・谷口・小寺会計士

〈報告事項〉

1．OT協会運転作業療法の指針説明会／11月12日／東京－桐山理事と丁子氏（富山リハビリテーション大学校）参加。富山県の取り組み状況、質問事項を報告する。
2．地域ケアに関する研修会／30年1月20日－サンシップとやまにて開催
3．災害時の連絡体制の訓練12月中に実施予定
4．東海北陸作業療法学会－開会式およびレセプションにて士会の活動紹介：田村会長、ポスターにて認知症作業療法推進委員会活動紹介－齋藤理事作成
5．OT協会士会接続システム講習会／10月28、29日－導入によるメリット、デメリット、今後、県士会で行なう必要のある業務の説明がなされ、取り組み方については今後検討していく。
6．MTDLP事例検討会／12月2、3日／福井／報告者－裏田氏・野間氏（南砺市民病院）、熊南氏（あんじゅーる）、山本氏（アルペンリハビリテーション病院）、杉本氏・橋本氏（県リハビリテーション病院）予定
7．自動車運転についてホンダ佐藤氏との話し合い／12月6日19:00～－県リハビリテーション病院にて開催。会長、事務局長、桐山理事、丁子氏他関係者参加予定

〈検討事項〉

1．小寺氏より財務に関する指導事項
税務署より現在、士会員に支払われている謝金と交通費について適切な処理がなされていないとの指摘があり、小寺会計士より指導を受けて以下に改善する。
・謝金など給与として支払われているものについては、源泉徴収を支払っていく。今後は源泉徴収を含めた金額設定を行い源泉徴収票の作成及びマイナンバーの提示をお願いする。
・交通費についても源泉徴収が発生しないよう旅費として支払う事とし、旅費規程を作成する。公共交通機関は実費、自動車は移動距離に応じた金額を支払う事にする。距離の算定、金額の設定については次回理事会で検討する。
・上記2点について文書を作成し先ずは全体会で説明する。
2．来年度事業計画について
概ね各部署の提案どおりとなった。来年度からMTDLPの研修は教育部の事業として行われるので、これまでのMTDLP委員との関係を明確にする。事例検討会開催については地域リハ部会の協力を得る。各部会での事例検討会の開催について全体会で確認し、困難な点についての対応策を講じる。調査部の事業が円滑に進むよう人員を増やす。

Toyama Prosthetics & Orthotics Service　http://www.tpo-morita.com

【営業品目】

義手・義足・補装具製作修理

車いす・ストーマ・補聴器

オーダーメイド靴製作

福祉用具貸与販売

360°

あなたの世界が広がる補聴器

OTICON | Opn　オーティコン オープン

（株）富山県義肢製作所
富山県補聴器センター

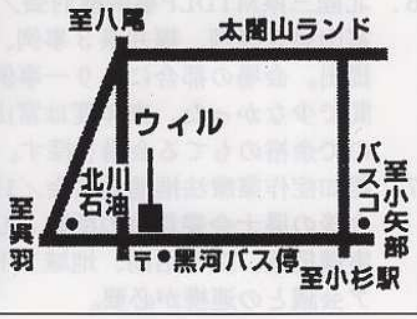
〒930－0042 富山市泉町１丁目２－16
TEL（076）425－4279　FAX（076）425－4587
e-mail t-gishi@cronos.ocn.ne.jp

介護保険対応！ ベッド・車椅子・レンタル！

車椅子
➡ 480円より
ベッド
➡ 700円より

リースナブル

株式会社 **ウィル**
TEL(0766)56-7099
FAX56-3395



3．来年度県学会
30年度は富山北地区で開催。今後は現在の高岡地区を砺波地区と高岡地区の２区に分け、学会開催の順を高岡・富山北・新川・砺波・富山南の５地区で巡回する。2020年度は東海北陸作業療法学会開催となり、準備委員会の立ち上げが必要。また、同年は県士会一般社団法人化10周年にあたる。

4．地域ケア会議・総合事業などに関わる研修会の開催について
各市町村で「日常生活支援総合事業」が本格導入されるにあたり、リハ職の積極的な関与が求められる。そのニーズに応える人材育成が必要であり、各施設から１名以上の参加を募る。
日時：平成30年１月20日(土) 9:45～16:00
場所：サンシップとやま
会費：500円(資料代)

平成29年度　第７回理事会

場　所：谷野呉山病院
日　時：平成29年12月４日(月)　19:00～
参加者：田村・松岡・島津・丸本・吉波・田邊・高林・齋藤・橋爪・松本・谷口・森・古澤

〈報告事項〉

1．12月11日に災害時を想定した情報伝達・状況確認訓練実施－自宅会員の発送の確認必要。一人職場で産休中の会員の安否確認はリーダーが直接施設に問い合わせる。総会時にこのシステムについて配布し施設で保管してもらう。
2．学会進捗状況－演題20題応募（口述９題、ポスター11題）特別講演は講師の都合により午後に変更。演題発表は午前にする。
3．在宅医療研修会－12月3日で今年度の開催は終了。来年度でこの研修会は終了。
4．地域アドバイザー委員会－１月20日の研修会参加申込みは現在18名。12月28日締切。
5．生涯教育推進担当者会議／11月11、12日－来年度現職者共通研修、選択研修について改訂あり。バーコードリーダーを使用した受付システムの運用
6．北陸三県MTDLP事例検討会／12月2、3日－富山県５事例、福井県３事例、石川県４事例提出。会場の都合により一事例40分の検討時間で少なかった。来年度は富山県にて開催なので余裕のもてる会場を探す。
7．認知症作業療法推進委員会／11月18、19日－今後の県士会委員会の活動として県士会員の実績把握、広報活動、地域アドバイザー、ケア会議との連携が必要。

〈検討事項〉

1．来年度事業計画修正案
・総務部－協会会員の名簿作成のため、名簿作成規約の作成をする。
・地域リハビリテーション部会－MTDLP事例検討会を教育部に協力して運営する。
・MTDLP推進業務の役割分担の明示
・福祉用具相談支援事業推進委員会－生活行為工夫情報モデル事業に取り組む。
2．部会等の活動に伴う交通費の規程
勤務施設～会場の往復距離
自家用車－10km毎　100円刻み
100km以上1,000円
公共交通機関－1,000円を上限として実費
3．東海北陸作業療法学会の協会・士会員の扱い
発表者は東海北陸の各県士会員であること、参加者は他県士会員も可。
4．自動車運転に関する委員会の設置
桐山理事を中心に進める。公安委員会との連携が必要。研修会では認知症委員会と連携、運転支援ニーズの把握は調査部に依頼。

賛助会員名簿

（順不同）

会員名（代表者）	住　所
温泉リハビリテーション いま泉病院 (院　長　大西　仙泰)	〒939-8075 富山市今泉220 TEL076-425-1166
㈱ウィル (代表取締役 黒田　勉)	〒939-0311 射水市黒河3075 TEL0766-56-7099
富山医療福祉専門学校 (学校長　長谷川　成樹)	〒936-0023 滑川市柳原149－9 TEL076-476-0001
学校法人金城学園 金城大学 医療健康学部 (理事長　加藤　真一)	924－8511 石川県白山市笠間町1200 TEL076-276-4400㈹

編集後記

2018年が始まりました。みなさん、昨年はどのような一年でしたか？
私事ですが、昨年は結婚、引っ越し、新たな職場での仕事と大きく環境が変わり、あっという間の一年でした。
毎年のことながら、歳を重ねるごとに１年が短く感じてしまいます。
実はこの現象、心理学的に『ジャネーの法則』と呼ばれているそうです。
また、時間を長く感じたり短く感じたりするのには日々の充実感や新鮮さも影響していると言われています。
「今年も速いなぁー」が年末の口癖とならないように好奇心をもってたくさんのことに挑戦し、充実した１年にしていきたいです。　（T・T）